



現在の宮ノ前通り（ほぼ同じ位置から撮影）



現在の阪急伊丹駅（駅西側の広場があった付近）



アーケードがあった宮ノ前商店街



西側から見た阪急伊丹駅（向こう側に長崎屋のビルが見える）



長崎屋のあったところは駐車場に



阪急伊丹駅西側広場（向こう側にジャスコが入居していた商業ビルが見える）



映画館もあった長崎屋のビル

10年一昔、激しい中心市街地商業界の移り変わり 松村 成朗さんの写真から見る 阪急伊丹駅周辺に進出した全スーパー撤退

ことわざに「10年たてば一昔」という言葉がある。だいたい10年を一区切りとして、人や社会に変遷を見ることができるといふ例えだが、伊丹市でも例外ではない。平成7年1月の阪神大震災の影響もあるが、平成時代になってからの変わりようは特に激しい。その変化を伊丹市西台1、フォトショップ松村の松村成朗さんが、市政施行50周年事業が実施された平成2年に撮影した阪急伊丹駅など中心市街地の風景写真から眺めてみた。現在の「新響楽器伊丹ショールーム」や「みなと銀行」伊丹支店にあった阪急伊丹駅が、再開発事業によって昭和43年11月、西北の現在地に移転して以降、駅周辺に多くのスーパーが開店した。駅構内には専門店が並ぶ「タミータウン」そして昭和46年ごろまでに駅東側に「長崎屋」駅東北に「ニチイ」駅西側に「ジャスコ」などが入居する3つの8階建て商業ビルが並んだ。

このほか「いづみや」「阪急オアシス」「ライフ」などもでき、伊丹の商業界は新しい時代を迎えた。松村さんが平成2年に撮影した当時、この3つの商業ビルは健在だったが、現在は「ニチイ」が入居していたビルがあるだけで、長崎屋が入居していたビルは駐車場に「ジャスコ」のビルはマンションになっている。また「ニチイ」も今は閉店、別の店が入居している。そして「いづみや」「阪急オアシス」「ライフ」などの伊丹店もない。ただ残るのは地元「関西スーパー」駅前店だけ。阪急伊丹駅も新しくなり、タミータウンには新しく「いかりスーパー」が開店した。JR伊丹駅前や宮ノ前商店街も再開発によって生まれ変わった。JR伊丹駅東側にはビッグストア「ダイヤモンドシティテラス」ができ、客足の向きが変わったともいわれ、伊丹の町はまだまだ変化が続きそうだ。